

# プチ哲学

佐藤 雅彦 著

単行本：154 ページ

出版：中央公論新社

価格：648 円（税抜）

## はじめに

「哲学」という言葉でネット検索をかけると、まず初めに難解な用語や理論が目に入ります。次いで哲学に対するネガティブなワードもすぐに見つかることでしょう。そんな遠い存在に思えがちな哲学という学問を「考えることって、たのしいかも」と表現しているのが本書です。

## 自分の時間

時間厳守というのは社会人にとって最優先で守らなければならない大切なルールではないでしょうか。社会人に限ったことではないかも知れません。大人も子供も時間の流れは共通です。

では、自分の時間を守っているという人はどのくらいいるのでしょうか。朝はアラームで強制的に起床し、毎日決まった時間の満員電車に乗り、帰宅後は誰が決めたでもないリーティーンをこなして眠りにつく。もちろん、仕事や人間関係によって、どうにも変えられない時間の使い方というのはあります。問題はそれ以外のところで

「自分の時間」で人生を送っているかどうか

当たり前のことを今更、と思う方もいるかも知れません。ですが哲学とはまずは考えてみることに。改めて自分の時間の使い方について向き合ってみませんか？

## 未来の自分から逆算しよう

このページでは「時間がなく急いでいる人がエレベーターに乗ろうとしている。真っ先にエレベーターから降りられるように1番最後に乗る」というイラストが描かれています。こちらもちよっと考えれば当たり前なことだとすぐに気付きますが、ではなぜこのような行動が取れるのでしょうか。

「機転が利くから」や「エレベーターに乗り慣れているから」という理由ではありませんよね。

大切なのは「最終結果をイメージし、そこから逆算して行動を組み立てること」だと筆者は言っています。

エレベーターの例は短期的な話ですが、1週間や1ヶ月、あるいは1年間だったとしても考え方は同じです。最終的なゴールを明確にイメージできていれば、先行きが見えない中で手探りするよりも、ずっと効率的に歩みを進めることができます。

## 新しいことばかり追いかけない

競争の激しい今の世の中で、自社のサービスや商品を勝ち残らせるためにどんな工夫をするのでしょうか。とにかく目新しい取り組みにばかり注力してしまうかも知れません。しかし、既存の仕組みを利用した画期的な方法の模索にもエネルギーを使ってみましょう。

「アイデアとは既存の要素の新しい組み合わせ以外の何物でもない」とある有名な実業家も言っています。本質的にはその通りですよ。

既存の仕組みを利用して新サービスを提供するのは、大幅なコストカットや時間短縮に繋がる可能性が高いこともポイントです。ここまでの内容を振り返ってみると、凝り固まった思考をリセットし、日々のちょっとしたことを深く広く考え直すことが哲学であるとも言えますね。「考えることって、たのしいかも」の言葉通り、様々な観点から哲学の入り口に触れることのできるオススメの一冊です。

